



一幸建設は昭和53年の設立以来、三河エリアで地元密着での建築と不動産に携わる会社です。本来ならば直接ご挨拶申し上げるべきところ不躰ではございますが、私どもの会社を知っていただきたいとの思いから、一度でも名刺交換などご縁を賜りました方に、ニュースレターを送付しております。仕事でかわった皆様にお力添えいただきながら、社員の幸せと日々の成長を糧に、地域の皆様に必要とされる地元でのお役立ち企業を目指しております。東三河での建築と不動産に関することでしたら、小さなことでもお気軽にご相談ください。

代表取締役 山本敬輔 営業スタッフ一同

『建設業 2024 年問題』 いよいよ始まる建設業の働き方改革

日本の長時間労働が問題視され 2019 年から『働き方改革関連法』が順次施行されています。建設業は、法律の適用に 5 年間の猶予期間が設けられていました。建設現場は工期が優先されるため、天候などあらゆる外部環境に左右されるなか、元請や下請けの多重構造も相まって、工期に余裕がなくなると土日祝日や深夜残業など、長時間労働が常態化するという現状がありました。また、月給にあらかじめ固定残業手当を含めるなど、もともと長時間労働を前提とした給与形態に、実質労働時間に換算すると初任給は高校生のアルバイト時給よりも安いのでは？と、特に新規入職を目指す若手労働者が集まらず、生産年齢人口が減少の一途を辿ってきた要因ともいわれています。近年、他の産業での『働き方改革関連法』生産性向上に対する考えが浸透し、ようやく我々の業界でも、現場の完全週休二日制の導入に向けた取組が始まるなど、実質的な賃上げに向けた改善も行われています。先日、地元高校の就職ガイダンスに参加させていただきましたが、AI などにとって代わるのが難しいと言われる、建設技能職・技術職に改めて関心が集まっているようで、少しずつですが説明会に参加する学生が増えているように感じます。

国の基幹産業ともいわれる建設業。資材高騰も相まって、お客様には大変ご迷惑をお掛けしておりますが、処遇改善して将来の担い手を確保するべく、若手にとっても魅力ある建設業を目指し、単に価格が高いと言われることが無いよう、技術・技能を高め、付加価値の高い建築サービスの提供に努めてまいります。



令和 6 年能登半島地震 被災者応援ボランティアバス

先月 9 日、令和 6 年能登半島地震 被災者応援ボランティアバスに中学 3 年生の息子が参加しました。愛知ボランティアセンターという NPO 法人で、東日本大震災など、様々な被災地応援活動をされています。まだ被災地は宿泊設備などが整っていません。週末を利用した 0 泊 3 日（車中 2 泊）もしくは、0 泊 2 日（車中 1 泊）でおこなっているため、平日に仕事や学校があるという方もご参加いただける、との事です。

我々も仕事柄、要請があると仮設住宅建築や家屋復旧など支援をさせて頂くことがありますが、被災当初はこの様な民間ボランティアが欠かせない存在となっています。



特定非営利法人
愛知ボランティアセンター
公式ブログ 引用



地元密着東三河での不動産と建築のことなら小さなことでもお気軽にご相談下さい！

※ニュースレターがご不要な場合はお手数ですが 0532-46-9336 まで

360° カメラで撮る竣工写真

リフォーム工事の竣工写真を撮影してきました。中古住宅を購入されたお客様からご依頼いただいた、間取り変更を含むリフォームを行なった事例です。360°カメラでも撮影しましたので、実際の現場にいるような感覚で事例を観ていただくことができます。

前回の 360°カメラでの撮影は、診療所だった空間を居住スペースに用途変更した事例で、お引き渡しの前の撮影でした。竣工写真を撮るタイミングはお引き渡しの直前にすることが多いのですが、住宅雑誌やインテリア雑誌に載せている写真は、家具やカーテンだけでなく、人物やペットまで写っていることがありますね。過去にはレンタルした家具を置いて写真撮影したり、完成見学会を開いたりしたこともありますが、お施主様の生活が始まった後では、より暖かい雰囲気を感じることができると思っています。

お引き渡しの直後など、日程によっては引っ越しの荷ほどきが終わっていない可能性もあるので、今回はお施主様が生活を始めてから 3 か月ほどたった時点で撮影をさせていただきました。入居後のご自宅の撮影に抵抗がある方もいらっしゃる中、小さなお子様がいらっしゃるにもかかわらず撮影にご協力いただいたことに感謝いたします。施工事例として公開準備を進めていますので、改めてお知らせします。



営業・設計 山崎

特色ある街づくり

豊橋市も数年前から駅前の雰囲気が変わってきました。

以前にも書かせていただきましたが、特に分譲マンションが増えてきています。ほの国百貨店の跡地の他に、まだまだこれからも数棟建設予定という話を聞きます。また、様々なご意見がありますが、豊橋公園にアリーナ建設構想があります。不動産業者からの視点からすると、スポーツやイベント施設の建設は、街に大きな影響をもたらすのだと思います。



私はサッカーが好きで、よくインターネットで情報を見たり、実際に試合観戦でスタジアムに行ったりすることもあります。現在長崎市では、西九州新幹線の停車駅である長崎駅から徒歩圏内に大きなサッカースタジアムを建設中で、2024年10月にサッカーを中心に観光、ホテル、その他複合施設が開かれる計画とのことです。サッカーも人気のある試合では数万人の人が観戦に来ますので、それだけの人が動くということは、公共交通機関が動き、飲食店なども盛り上がり、経済効果があるのだと思います。愛知県内では、2026年には安城市にもバスケットを中心としたアリーナが完成すると聞きました。同じように新幹線の停車駅である豊橋では、今は分譲マンションの建設がメインですが、駅前がより魅力的に再開発されれば、豊橋の街にも今までと違った特徴が出てくるのではと期待しています。

←長崎スタジアムシティ公式サイトより引用

建築不動産営業 筒井